九重山
―九州本土最高峰をかかえる活火山―

写真１　南麓から見た九重山

写真２　沓掛山の紅葉　遠景は星生山（右）と三俣山（左）

写真３　空から見た九重火山。中央やや右の大きな白い噴煙は硫黄山の噴気帯から。すぐ右側の小さな噴煙は 1995 年火口からの噴煙。（熊本大学宮縁育夫氏撮影）

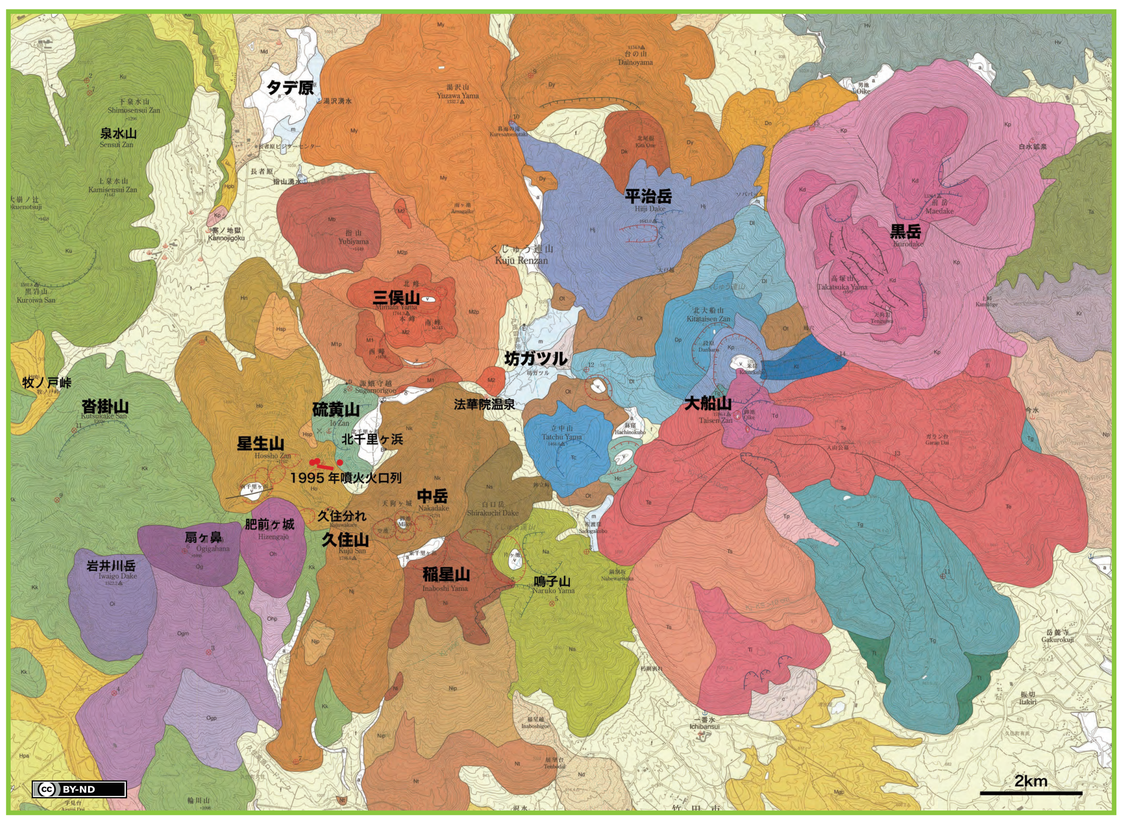

図１　火山地質図「九重火山地質図」（一部）に加筆　BY-ND

写真４　大船山（左）と黒岳。大船山は厚い溶岩流からなる成層火山、黒岳は溶岩ドームです。

❶ 多くの登山客を魅了する九重山

大分県西部にある九重山は、九州本土最高峰の中岳（1,791m）をはじめ、久住山、星生山（ほっしょうざん）、大船山（たいせんざん）などの火山群の総称です（写真1）。「阿蘇くじゅう国立公園」に指定されているほか、坊ガツル・タデ原湿原は「ラムサール条約」の登録湿地です。山中や周辺には法華院温泉など多くの温泉や湧水もあり、５月ごろのミヤマキリシマの咲く時期、秋の紅葉期には特に多くの登山客でにぎわいます（写真2）。

❷ 火山が作った美しい風景

九重山は約 20 万年前から活動を始め、地形や放射性年代からおおよそ西側の火山体が古く、東側が新しい傾向があります。九重山山麓の飯田高原、久住高原などの高原地形は約５万年前に噴出した火砕流堆積物の台地です（図1）。九重山中部の星生山、硫黄山周辺には噴気帯があり、周辺は植生のない荒々しい風景が広がります（写真3）。

ミヤマキリシマの名所として知られる大船山は、約 7,000 年前以降に活動した安山岩～デイサイト質の成層火山、最新のマグマ噴火は、約 1,600 年前に発生した安山岩質の黒岳溶岩ドームの噴火で、まだ新しいこれらの火山には新鮮な火口地形や溶岩流地形が残っています（写真4）。また、坊ガツルなどの湿地は、溶岩流や山体崩壊でせき止められた窪地が湿原になったもの。九重山の風景はこのように火山が作り出したものなのです。

❸ 登山を楽しむために

1995 年に星生山東斜面で小規模な水蒸気噴火が発生し、熊本市などに降灰がありました。同じような噴火は約 3,500 年前以降何回か起きたことがわかっており、将来登山道近くで発生すると小規模な噴火でも被害が出る可能性があります。また大規模なマグマ噴火は約 1,600 年間発生していないとは言え、長い活火山の一生からはまだまだごく最近の噴火といえます。九重山を楽しむためにも、活火山であることを忘れずに、火山情報に注意することが大切です。

著者：川邊禎久・星住英夫

ⓒ 産総研 地質調査総合センター